



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 富士本 淳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 根岸 良直

TEL 03-5530-3055

四半期報告書提出予定日 平成27年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	45,165	17.5	8,146	△11.5	5,144	△45.3	3,775	△12.8
27年3月期第2四半期	38,428	31.3	9,200	73.4	9,404	123.4	4,327	544.4

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 7,038百万円 (—%) 27年3月期第2四半期 △1,007百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
28年3月期第2四半期	51.44	51.44
27年3月期第2四半期	58.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
28年3月期第2四半期	347,861	223,776	64.0	3,033.85
27年3月期	288,120	220,020	75.9	2,979.73

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 222,635百万円 27年3月期 218,664百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
27年3月期	—	0.00	—	15.00	45.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成27年3月期の年間配当金の合計は、平成27年3月5日を臨時の基準日とする剰余金の特別配当額(1株当たり30円)を含めた金額であります。
平成28年3月期の配当予想は未定としております。

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	100,300	13.9	19,800	△5.9	19,200	△12.9	9,300	△8.6	126.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 一社 (社名) 、 除外 1社 (社名) Universal Entertainment Korea co.,Ltd
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	80,195,000 株	27年3月期	80,195,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	6,811,183 株	27年3月期	6,811,154 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	73,383,836 株	27年3月期2Q	73,383,846 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(5) 追加情報	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成28年3月期 第2四半期累計	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益
個別(百万円)	45,045	9,126	8,787	6,200
連結(百万円)	45,165	8,146	5,144	3,775

当第2四半期連結累計期間における売上高は45,165百万円(前年同期比 17.5%増)、営業利益は8,146百万円(前年同期比 11.5%減)、経常利益は5,144百万円(前年同期比 45.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,775百万円(前年同期比 12.8%減)となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下の通りです。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①パチスロ・パチンコ事業

パチスロ機においては、以下のタイトルを市場投入いたしました。

“リバイバル”をテーマとした「A PROJECT」の第4弾となる『サンダーVリボルト』、新基準に対応したART機として『SLOTシャドウハーツII-運命の道標-』、岡崎産業社とのコラボレーションの第2弾となる『キングジャック』の計3タイトルとなります。

さらに、既に市場へ導入され、ユーザーの皆様やホールから高い評価をいただいているパチスロ機の『沖ドキ!』、『SLOT魔法少女まどか☆マギカ』などを中心に、既存導入機種を増産販売を行いました。

パチンコ機においては、パチスロ市場において絶大な人気を誇る「ミリオンゴッド」のコンテンツを活用した新タイトル『CRミリオンゴッドライジング』を発表し、7月より導入が開始されております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるパチスロ・パチンコ機の販売台数は約105,000台となり、パチスロ・パチンコ事業の売上高は43,373百万円(前年同期比 17.4%増)、営業利益は15,286百万円(前年同期比 1.7%増)となりました。

②その他

メディアコンテンツ事業においては、パチンコ機『CRミリオンゴッドライジング』のシミュレーターアプリをApp StoreやGoogle Play、会員制モバイルサイト「ユニバ王国」にて配信いたしました。『CRミリオンゴッドライジング』はランキングでも上位を維持し、好評をいただいております。

また新たに、テレビ向けクラウドゲームサービス「ひかりTV」にて『大花火』の配信を開始いたしました。往年の名機『大花火』をテレビでプレイできることから、ユーザーの皆様さまに好評をいただいております。

日本最大のパチスロ・パチンコ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を運営する日本アミューズメント放送株式会社における第2四半期の放送事業においてはJ:COM加入件数が引き続き堅調であり、好調に推移しております。コンテンツ配信事業においては7月に提供を開始したコンテンツの売上が好調となっております。また、3月にサービスを開始したPC・スマホ向け動画配信サイト「パチテレ!NETプレミアム」も順調に加入者を伸ばしております。

結果、第2四半期までの営業利益は目標に比べて153.1%の達成率となっております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他売上高は1,798百万円(前年同期比 19.5%増)、営業損失は2,066百万円(前年同期 営業損失1,541百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は131,789百万円となり、前連結会計年度末に比べ28,592百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が45,838百万円増加したこと及び受取手形及び売掛金が19,392百万円減少したことによるものであります。固定資産は213,946百万円となり、前連結会計年度末に比べ29,023百万円増加いたしました。これは主に建設仮勘定が22,686百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、347,861百万円となり、前連結会計年度末に比べ59,740百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は42,712百万円となり、前連結会計年度末に比べ22,842百万円減少いたしました。これは主に短期借入金が14,032百万円及び未払法人税等が3,599百万円減少したことによるものであります。固定負債は81,372百万円となり、前連結会計年度末に比べ78,826百万円増加いたしました。これは主に社債が72,637百万円及び長期リース債務が5,117百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、124,084百万円となり、前連結会計年度末に比べ55,984百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は223,776百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,756百万円増加いたしました。これは主に為替換算調整勘定が3,474百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は64.0%（前連結会計年度末は75.9%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①パチスロ・パチンコ事業

第3四半期においては、業界パチスロ・パチンコそれぞれの自主規制における導入期限（10月および11月）から他社からの過剰供給販売の影響が想定されますが、弊社においては引き続き人気ある既存導入パチスロ機の販売を軸として、ホールへパチスロ機の安定供給ができるよう努めてまいります。

また、パチンコ機においては、『CRミリオンゴッドライジング』に続き、同じくパチスロ市場での強力なコンテンツであるドンちゃんシリーズの「緑ドン」を使用した『CR緑ドン 花火DEボ〜ンジョルノ』の販売を行っております。

今後も、パチスロ機と同様にパチンコ機においても新タイトルの安定的な継続販売を行ってまいります。

②その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き、ユーザーの皆さまに高品質なシミュレーターアプリを提供できるよう研究開発を進めてまいります。また、会員制モバイルサイト「ユニバ王国」においては、サイトの充実を図るとともにアプリコンテンツも続々投入する予定です。今後もユーザーの皆さまからの支持が得られるようなサイト運営を行ってまいります。

日本最大のパチスロ・パチンコ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV！」を運営する日本アミューズメント放送株式会社においては、PC・スマホ向け動画配信サイト「パチテレ！NETプレミアム」によってより一層の加入者数の増加を目指すべく、新たなサービス・プロモーションの実施や検討を行ってまいります。また、10月に番組改編を予定しており、今後も放送事業の拡大やパチスロ・パチンコ市場全体の活性化を図るための番組制作ならびに、よりユーザーに支持されるような番組編成を行ってまいります。

また、当社グループがフィリピンで開発しているカジノリゾートプロジェクト「マニラベイリゾート」においては、ガラスファサード等の施工が着実に進展しております。

世界中のお客様を魅了する世界最高峰の「楽しい！」カジノリゾートを目指し、邁進してまいります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	39,155	84,994
受取手形及び売掛金	26,571	7,179
有価証券	505	14
商品及び製品	1,272	1,195
仕掛品	11,226	12,450
原材料及び貯蔵品	17,175	17,889
繰延税金資産	825	332
その他	6,505	7,757
貸倒引当金	△41	△23
流動資産合計	103,196	131,789
固定資産		
有形固定資産		
土地	7,764	7,802
建設仮勘定	52,235	74,922
リース資産(純額)	-	6,012
その他	19,763	15,608
有形固定資産合計	79,763	104,345
無形固定資産		
その他	1,653	1,724
無形固定資産合計	1,653	1,724
投資その他の資産		
投資有価証券	58,330	60,551
長期預け金	13,096	13,623
関係会社長期預け金	28,964	31,125
その他	6,287	6,013
貸倒引当金	△3,171	△3,437
投資その他の資産合計	103,506	107,876
固定資産合計	184,923	213,946
繰延資産	-	2,125
資産合計	288,120	347,861

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,243	13,555
未払金	6,904	5,673
短期借入金	28,782	14,750
1年内償還予定の社債	500	250
未払法人税等	7,082	3,483
賞与引当金	246	265
その他	6,793	4,734
流動負債合計	65,554	42,712
固定負債		
社債	—	72,637
資産除去債務	377	379
長期リース債務	—	5,117
その他	2,168	3,237
固定負債合計	2,545	81,372
負債合計	68,100	124,084
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	10,852	10,852
利益剰余金	205,314	205,787
自己株式	△14,296	△14,296
株主資本合計	201,967	202,440
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30	54
為替換算調整勘定	16,665	20,140
その他の包括利益累計額合計	16,696	20,194
新株予約権	32	53
非支配株主持分	1,323	1,088
純資産合計	220,020	223,776
負債純資産合計	288,120	347,861

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	38,428	45,165
売上原価	16,543	21,555
売上総利益	21,885	23,609
販売費及び一般管理費	12,684	15,463
営業利益	9,200	8,146
営業外収益		
受取利息	43	27
受取配当金	7	221
為替差益	534	—
その他	113	43
営業外収益合計	698	292
営業外費用		
支払利息	230	379
為替差損	—	1,689
支払手数料	33	79
売上割引	222	97
持分法による投資損失	—	965
その他	7	82
営業外費用合計	494	3,294
経常利益	9,404	5,144
特別利益		
固定資産売却益	—	5
新株予約権戻入益	22	1
子会社清算益	—	1,758
その他	—	6
特別利益合計	22	1,771
特別損失		
固定資産除却損	0	6
関係会社事業損失	441	—
特別損失合計	442	6
税金等調整前四半期純利益	8,985	6,909
法人税、住民税及び事業税	3,974	2,789
法人税等調整額	700	580
法人税等合計	4,674	3,369
四半期純利益	4,310	3,540
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△16	△234
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,327	3,775

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
四半期純利益	4,310	3,540
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	23
為替換算調整勘定	△5,308	3,474
その他の包括利益合計	△5,318	3,498
四半期包括利益	△1,007	7,038
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△991	7,273
非支配株主に係る四半期包括利益	△16	△234

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,985	6,909
減価償却費	1,623	1,706
社債発行費償却	-	73
関係会社清算損益(△は益)	-	△1,758
持分法による投資損益(△は益)	-	965
賞与引当金の増減額(△は減少)	15	19
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1	249
受取利息及び受取配当金	△50	△249
支払利息	230	379
有形及び無形固定資産除却損	0	6
関係会社事業損失	441	-
新株予約権戻入益	△22	△1
為替差損益(△は益)	642	△796
売上債権の増減額(△は増加)	13,457	19,392
たな卸資産の増減額(△は増加)	△560	△1,847
未収入金の増減額(△は増加)	6	△24
長期未収入金の増減額(△は増加)	△44	59
破産更生債権等の増減額(△は増加)	△4	120
仕入債務の増減額(△は減少)	△10,061	△1,688
未払消費税等の増減額(△は減少)	1,702	△1,397
未払金の増減額(△は減少)	△765	△872
前受金の増減額(△は減少)	△56	△1,044
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1,250	△1,178
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△1,197	△632
その他の固定負債の増減額(△は減少)	40	△28
その他	△35	△1
小計	13,097	18,361
利息及び配当金の受取額	50	249
利息の支払額	△230	△379
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△7,536	△6,358
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,381	11,873

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	8,429	—
有形固定資産の取得による支出	△10,984	△23,074
有形固定資産の売却による収入	3	17
無形固定資産の取得による支出	△392	△236
投資有価証券の取得による支出	△4	△1,465
子会社株式の取得による支出	△294	—
敷金及び保証金の差入による支出	△30	△218
敷金及び保証金の回収による収入	1	9
預け金の増減額(△は増加)	△7	△2,419
その他	20	403
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,259	△26,985
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△9,202	△14,373
長期借入金の返済による支出	△218	—
社債の発行による収入	—	70,855
社債の償還による支出	△990	△250
配当金の支払額	△1,834	△3,302
担保提供預金の増減額(△は増加)	8,412	△934
セールアンド割賦バック取引による支出	—	△615
セール・アンド・リースバックによる収入	—	6,243
セール・アンド・リースバックによる支出	—	△187
その他	△7	133
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,839	57,568
現金及び現金同等物に係る換算差額	△317	2,320
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,035	44,777
現金及び現金同等物の期首残高	28,743	39,356
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	5	—
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△338
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,712	83,795

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(5) 追加情報

(訴訟)

Wynn Resorts, Limited (NASDAQ: WYNN, 以下「ウィン・リゾート社」)との民事訴訟に関しては、現在ディスカバリー及び証言録取等の証拠開示手続き中であり、今後、トライアルにおいて証人尋問等を経て判決に至るという過程となります。この判決結果により発生する可能性のある当社及び連結子会社等からなる企業集団の特定期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を確実に見積もることが困難である事実を踏まえ、平成25年3月期連結会計年度末よりウィン・リゾート社株式を取得原価で評価しております。

ウィン・リゾート社が発行した長期受取手形に対する受取利息として、これまでに3年分(1年あたり38,728,852.63ドル)が裁判所の事務官宛てに、同事務官の信託口座への預け入れ用として支払われました。しかしながら、請求権の原則に基づいて当社グループに帰属しないと判断されることから当該小切手の受取利息を会計上も税務上も認識する必要はないこととなる可能性が高いと判断され、当社連結財務諸表には利息付小切手発行に係る事実を反映させておりません。

なお、当社は、2015年2月に、アルゼUSA等と共に、中華人民共和国マカオ特別行政区第一審裁判所において、Wynn Resorts (Macao) S.A. 及びスティーブ・ウィン氏ら同社取締役4名を相手として、同社の解散及び約80億マカオパタカの損害賠償等を請求する民事訴訟を提起しており、現在当該訴訟が係属中です。

(支払利子の取得価額算入)

カジノリゾート事業に要した資金のうち、その建設資金を借入金及び社債(私募債)により調達している長期プロジェクトで、かつ、その金額が重要なものについては、建設期間中に対応する支払利子を取得価額に算入しております。